

夏合宿セミナー

■ 企画概要

5日間の合宿型のセミナーを行い、即戦力となる人材を養成し、インターンシップへの参加促進、早期就職促進を図る。自己成長、就職支援に加え、カリキュラム内に企業プレゼンテーションを設け、就職までに必要なプロセスを組み込む。また、一定期間の共同生活を通し、社会人としての規律を集団生活を通して身につけるといった要素も含む。

■ 対象: 若者

■ 種類: 合宿型セミナー

- POINT -

合宿型にすることで集中的に就活力、社会人基礎力を身につける工夫

似た境遇の若者が共同生活することで、参加者の一体感が養われ、かつ社会人としての規律を身につける工夫

合宿前に参加希望の書類提出、事前面接を行うため、意欲の高い若者が参加し、マッチングにつながりやすい

定員は約15名と少人数であり、ひとりひとりへの育成・フォローの充実をはかる体制で実施



- 企画実施の目的 -

- ・即戦力となる人材を養成し、早期就職へ結びつける
- ・インターンシップへの参加促進、求職者と企業のマッチング促進

- 効果 -

- ・実施後2ヶ月で参加者の7割以上の就業が決定(10割の場合もあり)
- ・ジョブカフェカンパニー(企業)、ハローワークなど関連機関との総合的な取り組み・連携が可能に

- 今後の展開 -

・より早期就職へ結びつけるための工夫

例) 2008年は、求職者と企業のマッチング部分のカリキュラム強化し、企業選定セミナーや面接対策を柱に構築、1ヶ月以内での就職を目指す

夏合宿セミナー

■ 企画詳細

【実施概要】

JSE2007 夏合宿セミナー
年間3回実施(新潟、長岡、その他)

長岡エリアでの実施例)

期間:平成19年8月27日～31日(5日間)

会場:中小企業大学校 三条校

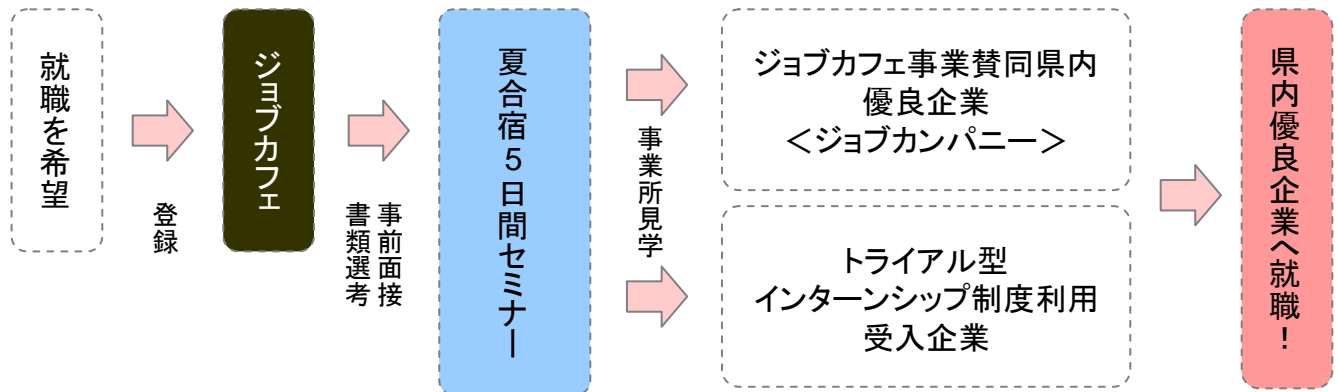
受講者数:10名

参加費:10,000円

夏合宿セミナーパンフレット



【夏合宿セミナーの流れ】



【事前選考の目的と方法】

・意欲の高い若者が参加するメリットと同時に、合宿という集団生活カリキュラムのため、共同生活のできる若者の参加を図るため

選考方法:

- ①応募書類の提出:履歴書、職務経歴書、自己PR書
- ②書類選考後、事前面接の実施

夏合宿セミナー

■ 企画詳細

【合宿メニュー】

・自己理解を始め、アサーティブ・コミュニケーション講座、実務に役立つマナー講座、職務経歴書作成講座など自己の見直しから実務スキル向上まで幅広いメニュー

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
9:30		全体ミーティング	全体ミーティング	全体ミーティング	全体ミーティング
10:00	開講式	KJ法式自己理解	職務経歴書作成講座	職場で役立つマナー講座	仕事を通して成長しよう！
10:30	オリエンテーション				
11:00	合宿の心構え				企業プレゼンテーション
12:00	昼食				
13:00	自分の未来を掴み取れ！キャリアデザインセミナー	キャリア・プレゼンテーション 5人グループで自分のキャリアを発表する・他者の意見を聴くことによって、自分の可能性を発見する	職務経歴書作成講座 就職相談会	自分も相手も尊重するアサーティブコミュニケーション講座	就職相談会
14:30	トライアル型インターンシップ制度について				
15:00	・リレー紹介 ・第一印象ゲーム		面接攻略講座	閉講式	
17:00	交流会				



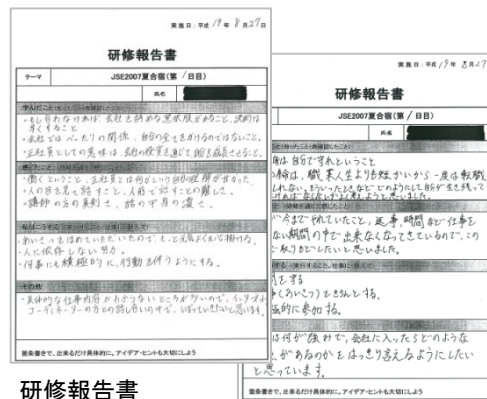
研修風景

夏合宿セミナー

■ 企画詳細

【研修プログラム修得促進策】

・その日の研修実施後、毎日「研修報告書」を作成。1日の研修を振り返り「学んだこと」「感じたこと」「私はこうする(実行すること:仕事と個人で)」について再確認する。



研修報告書

【企画への参加(応募)促進策】

各施策の広報だけでなく、ジョブカフェ全体の認知向上をはかることで、各施策への参加促進を実施

- ・保護者への広報を意識して、新聞への折込チラシを実施
- ・地元雑誌とのタイアップ記事広告などジョブカフェの活動認知の向上

■ 企画ナレッジ・ノウハウ

- 他の地域で活用できるナレッジ・ノウハウ -

- ・合宿という長時間、多くの人とともに過ごすカリキュラムで、自己理解などのキャリア支援や、職務経歴書など就職支援に加え、社会の規律を就職前に学ぶことができる工夫
- ・若者の意欲を高めるため企画への選考を通した参加の手法
- ・自己の成長から就職までのプロセスで必要な要素をまとめた早期就職への工夫

(担当者コメント) おおくの参加者から、これまでの人生でもっとも就職について真剣に考えるよい機会になったと感想があった。企業プレゼンテーション参加企業に対し、ジョブカフェを利用する若者は、会社の戦力となる人材が多くいると認識してもらった機会となった。

